



発行日/2024年4月24日

編集・発行/堺市立健康福祉プラザ

視覚・聴覚障害者センター

聴覚障害者情報提供施設

〒590-0808 堺区旭ヶ丘中町4-3-1

Tel:072-275-5024 Fax:072-243-2222

Mail:mimi@sakai-kfp.info

みみより

72

ごあいさつ

楫 希代見

今年は寒の戻りもあり、桜の開花が例年より少し遅れたようですが、入学式の写真を満開の桜の木の下で…というシーンを久しぶりに見ることができました。新しい年度が始まり、新たなスタートを切った方もおられると思います。

きこえない・きこえにくい方が「何かを始めよう！」というとき、周囲とのコミュニケーションや情報取得に難しさを感じる人が多いのではないのでしょうか。今年4月1日からは、「合理的配慮の提供」が事業者にも義務化されました。どんな配慮が必要なのか、どんな配慮ができるのか、当事者同士で対話を重ね、一緒に解決していくというのがこの法律のポイントです。ただ、きこえない・きこえにくい人にとっては、「解決のための対話」の段階から合理的配慮が必要です。そもそも「対話」は双方向のもの。きこえる人にとっても、手話通訳や要約筆記は対話の成立のために必要なサポートなのだ気づいていただけるよう、センターとしても働きかけていきたいです。

新しい年度、職員体制は少し変わりますが、メンバーは同じです。引き続きどうぞよろしくお願いたします。



開催事業報告

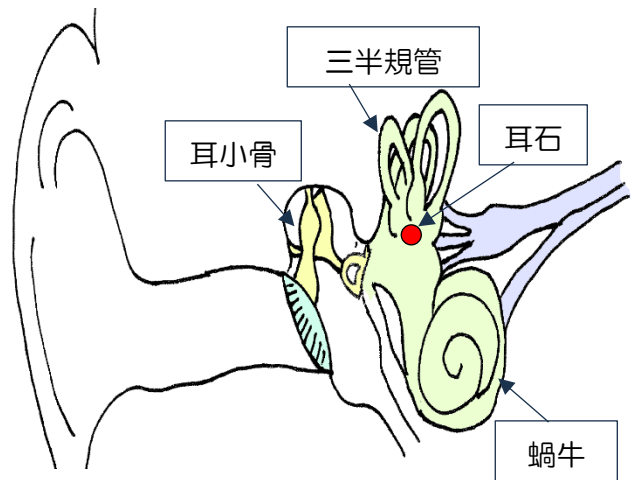
《きこえのセミナー》

2月24日(土)に「めまい・難聴の治療について」と題し、ベルランド総合病院のめまい難聴センター長、今井 貴夫先生に講演していただきました。

めまいは、内耳の平衡器官の病気によって起こります。60歳以上では30%、85歳以上では50%の人がめまいを経験しており、症状のために外出できなかったり、ふさぎ込んでしまったりすることでフレイル(心身の活力が低下する)に陥りやすいと言われています。代表的な病気といえば「メニエール病」と思っていたのですが、実際には、「良性発作性頭位めまい症」という病気が23%を占め、疑いを含めると40%近くになるのだそうです。三半規管にある「耳石(じせき)」がはがれ、三半規管の中に入ってしまうことが原因なので、頭の向きを変えながら排出する治療を行えば改善するそうです。

10%程度を占めるメニエール病は、蝸牛(かぎゅう)の「内リンパ水腫」が原因で起こる病気で、難聴・耳鳴りを伴うめまい発作を繰り返す病気です。治療は服薬、減塩食、生活習慣の改善等で行います。それでも治らない人には、保険適応の「中耳加圧療法」という治療もあり、ベルランド総合病院では対応可能とのことでした。

一方、難聴については治療が可能な伝音難聴と、一部を除いて治せない感音難聴があります。例えば、伝音難聴の原因となる「耳硬化症(じこうかしょう)」では、動かなくなった「あぶみ骨」を人工骨に入れ替える手術が可能です。以前は耳の後ろを大きく切って手術をしていましたが、現在は内視鏡手術で2泊3

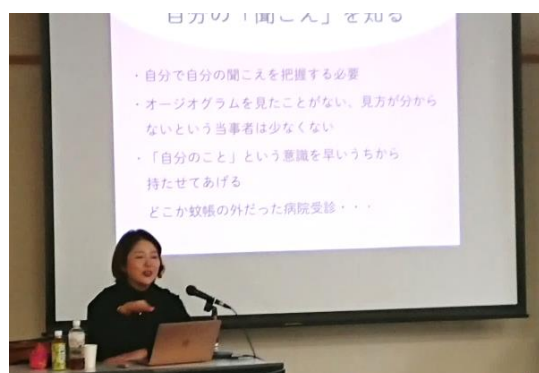


日の入院で治療ができるようになりました。

感音難聴は内耳にある有毛細胞が傷むことで起こります。有毛細胞を含め、一度障害された神経は再生することがありません。再生医療といえば「iPS細胞」はどうなっているのか、と思う方も多いでしょう。理論的にはどの部位であっても分化する細胞ですが、技術的には難しいと言われています。それでも、研究としては有毛細胞の再生に成功した例があるそうです。また、根治が難しい耳鳴りも、認知行動療法等で「気にならなくする」治療もあるそうです。悩んでいる当事者にとっては苦しい症状で、「完治する治療はないのか」と感じておられるかもしれませんが、研究開発は少しずつ進んでいます。

めまいも難聴も、活動や人との交流に大きく影響します。病気のメカニズムと治療について知ることによって少し希望が持てた、同じ不安や気持ちの方が自分以外にもいると知り心が軽くなった、等の感想をお寄せいただきました。今後もきこえのセミナーが一助になれば幸いです。

《保護者学習会》



今年度3回目の保護者学習会は、「モヤモヤをことばにする～障害理解と説明力～」をテーマに開催しました。言語聴覚士であり、聴覚障害当事者でもある志磨村 早紀さんにお話をいただきました。

学生支援にも携わってこられた志磨村さんですが、ご自身が支援に出会ったのは大学に入ってから。幼いころに聞こえにくいことに気づいてはいたものの親にも言わず、小学2年生の時にようやく打ち明けたのだそうです。とはいえ、自分も親も先生も何をどうすればいいかわからず、座席を一番前にするくらいしか思いつかないまま、「頑張って聞くしかない!」と思いながら過ごしていたそうです。

特に低学年での遊びの場面では、きこえにくい子どもも「お友だちとうまく遊べている」ように見えます。けれども、実際には周囲の動きを見てまねをしたり、想像したりと、頭の中は大忙しです。失敗したときも、それがきこえなかったことが原因なのかどうか、本人にもわかりません。自分の置かれた状況を周囲の人に伝えようとしても「耳がきこえません」と、できないことしか言えなかったのが悲しかったと、志磨村さんも体験を語ってくださいました。「こうすれば助かる」と言えるようになるには、一緒に考えてくれる人が必要だとのことでした。

保護者としては、できるだけ子どもが困らない環境を用意してあげたいもの。けれど、本人が気づいて利用する、納得して支援を使うことが大切だとも話しておられました。志磨村さん自身は、ノートテイクという支援を知った時、役に立つのかどうかかわからなかったそうです。「自分の耳で頑張って聞く」に慣れていたこともあり、支援を受けること自体に戸惑いもあったとか。けれども、文字を見ることで、きこえていない情報をキャッチし、教室の臨場感も伝わり、楽しくなっていく。そうやってやっと、ノートテイクを使っているかと思えたそうです。そして、通常の講義はノートテイクが合っていたとしても、体育の時、ディスカッションの時など、場面が変われば必要な支援も違います。ここでも「一緒に考えてくれる人」が必要になってきます。社会に出た時に自分で伝えられるように、学生時代にいろいろなことを試し、検証し、話し合っていく。その中で自己理解や説明力が育っていくのだと感じました。



《みみサロン》

3月16日(土)、2025年に日本で初めて開催される「デフリンピック」を応援しようと、「みんなのデフリンピック」をテーマに開催しました。第1部はデフリンピック周知用の約20分間の映画上映。その



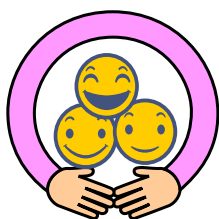
後、第2部は大阪デフスポーツサポーター委員会から千葉 文恵氏を講師にお迎えしました。部屋いっぱいに埋まる参加者29名が集まりました。「パラリンピック」の知名度は、国民98.2%です。パラリンピックよりも歴史の長い「デフリンピック」の知名度は、わずか11.2%と話され、パラリンピックとの差がありすぎることに参加者は驚いた顔をしていました。ちなみに、海外では90%以上もデフリンピックを知っているそうです。

他にも、耳に障害があることから陸上競技や野球大会出場ができないなど、スポーツの分野で差別を受けた過去があったことなど話されました。デフリンピック日本開催に向けて、多くの市民に聴覚障害者への理解や手話普及の取り組みを通してデフリンピックの知名度をあげ、みんなで応援しようと場が盛り上がりました。

【参加者の声】

- ・デフリンピックの実情がよくわかって良かったです。
- ・オリンピックとパラリンピックは知っていましたが、デフリンピックは知りませんでした。
- ・デフリンピックが100年も続いていたとは知りませんでした。
- ・スポーツ競技を通じて、聴覚障害者のことが理解されるといいですね。

《もじサロン（筆談会・わいわいおしゃべり会）》



もじサロン(筆談会)は、3月は3名、4月は2名の方にご参加いただきました。介護経験、おいしいお店やおすすめ品をそれぞれに教えてもらったり、家族とのコミュニケーションで工夫していることや、もう諦めている点もあって、難聴者同士だからこそ面白おかしく話しました。聞こえていた家族が聞こえづらくなって会話が弾まなくなることには、本人も身近な家族もなかなか慣れませんが、「そうそう、あるある!」と共感できる場所があることは心強いです。

要約筆記を利用した「わいわいおしゃべり会」は6月12日。それ以外の月は、第2木曜日に筆談会を開催しています。筆談会は、前日までにお申し込みいただければ大丈夫。また、遅刻・早退もOKです。どうぞお気軽にご参加ください。

「コムニーン(comuoon)」を窓口に設置!



「コムニーン」は、音の明瞭度を向上させることでことばの聞き取りやすさをアップしたスピーカーです。センターの窓口に置いていた初代のコムニーンが故障してしまった後、しばらく設置できていませんでしたが、4月3日に新しい機種が届き、窓口に設置しました。今回はマイクがワイヤレスなので、少し離れた場所の声も拾うことができます。お試しご希望の方は、お気軽にお申し付けください。また、センターでのご相談時にもご利用いただけます。

このほか、対話を支援する機器の貸出もしています。詳細は、右の二次元コードからご確認ください。紙のパンフレットをご希望の方は、FAX、メール等でお知らせください。



手話奉仕員・通訳者養成講座

今年度も各講座を開催します

現在、2024年度の市民向け手話講座(春コース)や手話通訳者養成講座(入門・基本・応用・実践)、手話フォローアップ講座などの準備に追われる毎日です。多くの方に手話を学んでいただき、きこえない方との交流の輪が広がることを期待しています。

要約筆記者養成講座

要約筆記者養成講座が始まります！

今年度の養成講座は、令和6年5月25日～令和7年1月11日の全27回の日程で開催されます。本年度も手書きコースです。新しい受講生の方との出会いを楽しみにしています。長丁場の講座ですが頑張りましょう!!

センター(聴覚)の行事

※行事はすべて事前申込が必要です。

4月11日(木) 14:00~15:30

もじサロン(筆談会)

5月9日(木) 14:00~15:30

もじサロン(筆談会)

5月10日(金) 13:30~16:30

補聴器相談(お一人50分)

5月18日(土) 14:00~16:00

みみサロン

「気持ちを伝える

～パラクライミングを通して～

5月25日(土) 14:00~16:00

きこえのセミナー

「音声認識アプリのお話」

6月14日(金) 13:30~16:30

補聴器相談(お一人50分)

6月15日(土) 14:00~16:00

もじサロン

「わいわいおしゃべり会」

ビデオライブラリーのおすすめ

「恋です！ヤンキー君と白杖ガール1」

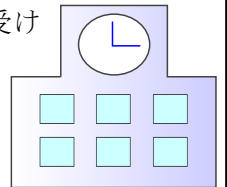
盲学校に通うユキコが白杖を持ち学校へ向かっていると、点字ブロックを塞いで話し込むヤンキーに遭遇。ユキコはヤンキーにどいてほしいと言うが、白杖をつかまれてしまいます。

ユキコは反射的にヤンキーを蹴り上げてしまうが、そのヤンキーは地元で黒ヒョウと呼ばれる有名な不良・黒川森生でした。

「ろうを生きる難聴を生きる春！

キャンパスライフ充実のコツ」

新入生に向けて「全日本ろう学生懇談会」に所属する現役大学生が、大学生活を充実させるためのコツを伝授。授業を理解するために欠かせない情報保障の受け方や、チャレンジしてみたいアルバイトをするための工夫など、お役立ち情報を教えてください。



頑張っています 手話通訳・要約筆記登録者

実施済

- ・盲ろう者手引き研修：3/6
- ・手話通訳者・要約筆記者合同研修：3/23
- ・新規登録者説明会・研修：4/13

- ・6/1 手話通訳者実技研修
 - ・6/22 手話通訳者・要約筆記者合同研修
- 新規登録者研修・更新研修も対象者にご案内しています。

センター(聴覚)の

公式LINE登録はこちら→

月2回程度、情報をお届けしています。

きこえる方はご遠慮ください。



事業状況

		手話通訳		要約筆記		ライブラリー	
		個人	講演	個人	講演	利用者数	貸出数
2月	派遣数	186件	14件	12件	8件	4人	22本
	派遣人数	195人	26人	22人	28人	新規登録者：0人	
3月	派遣数	211件	30件	12件	12件	4人	23本
	派遣人数	225人	49人	22人	43人	新規登録者：1人	

ご協力ありがとうございました

